

市民活躍・地域コミュニティ活性化特別委員会行政視察概要

1 観察月日 令和7年8月25日（月）～8月26日（火）

2 観察先及び観察事項

（1）佐賀県

自発の地域づくりや担い手確保の取組について

（2）福岡県飯塚市

地域コミュニティ活性化に向けた協働への取組について

3 観察委員

委 員 二 井 くみよ

視察概要

1 視察先

佐賀県

2 視察月日

8月25日（月）

3 対応者

議会事務局議事課委員会担当主任主査 (挨拶)

地域交流部さが創生推進課課長 (説明)

地域交流部さが創生推進課副課長 (説明)

4 観察内容

(1) 自発の地域づくりや担い手確保の取組について

ア 県庁内での自発の地域づくりの推進

県庁では、住民が主体となって地域課題の解決に挑戦する自発の地域づくりを積極的に推進している。特に、職員の約2割を民間出身職員が占め、多様な発想を生かした事業展開が特徴である。10年以上にわたり約10の事業が進められており、挑戦を受容し成果を積み重ねる文化が形成されているため、失敗しても挑戦する風土が根づいている。失敗事例は全体の5%程度にとどまっている。

イ 地域資源を生かした具体的取組

地域資源を最大限に生かす事例として、唐津市では七つの離島を活用した島留学を実施し、島ならではの自然環境を生かした豊かな体験活動と教育を実施している。

地域の魚をブランド化する太良町ではコハダ女子会、若者が地域に入り込む若者ラボ、駅の改修を活用した鹿島と太良をまるごと宿に見立て、暮らすように旅をするスローツーリズムの創出などを行っている。また、中高生が佐賀の魅力を発信する日めくりカレンダーの作成など、多様な年代が関わる取組も進められている。これらは体験型・参加型の形を取り、地域住民の誇りを引き出しつつ、地域経済や人材の循環につなげるものとして活用されている。

ウ 質疑概要

Q 職員が地域に関わる際、どのように住民の信頼を得ているのか。

A 短期間での異動を避け、通常より長い期間同じ地域を担当し、

地域の方々と顔の見える関係を築いている。

Q 若者や学生の地域参画を継続させる工夫はあるか。

A コンテストやツアーや、体験プログラムを通じ成功体験や交流の場を提供し、次につながる動機付けを意識している。

Q 失敗した事例に対しては、どのような評価をしているのか。

A 失敗を排除せず、成果や課題を共有し次に生かす仕組みを整えており、挑戦自体を評価する風土を大切にしている。

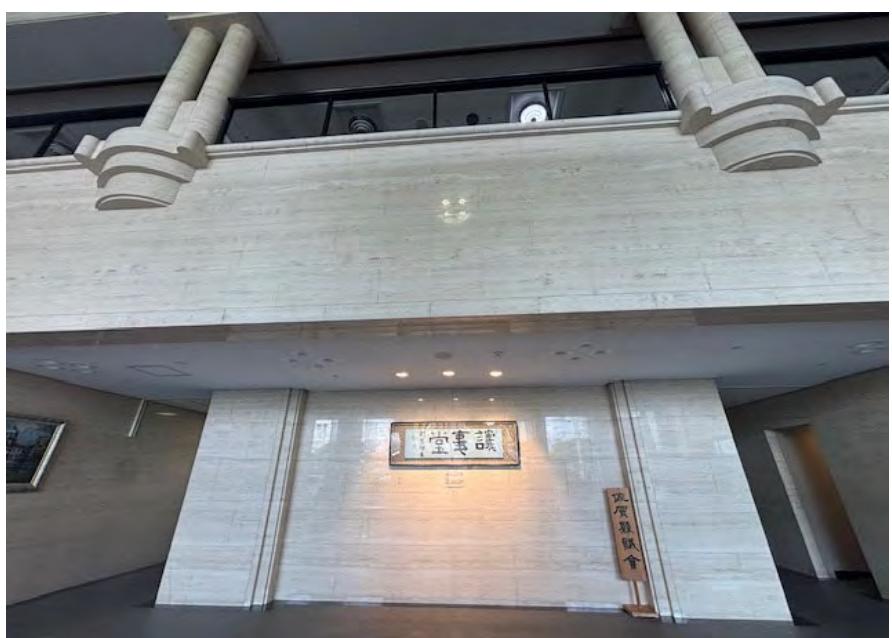
(2) 委員所見

佐賀県の取組は、地域住民が自発的に行動してみようと思える環境づくりと、行政が伴走して挑戦を支える仕組みが強みであると感じた。

特に、民間出身職員を積極的に登用し、新しい発想を事業に反映している点は本市にとって大変参考となると感じた。また、若者や学生が地域の魅力を再発見し、発信する仕掛けは、都市部でも応用可能であると考える。今後、本市においても小規模な実証や挑戦を歓迎する文化を醸成し、住民が自ら地域づくりに関われる仕組みを整えていく必要性を感じた。



(会議室にて説明聴取及び質疑)



(佐賀県議会エントランスにて)

視察概要

1 視察先

福岡県飯塚市

2 視察月日

8月26日（火）

3 対応者

議会局長	(挨拶)
市民協働部まちづくり推進課課長	(説明)
市民協働部まちづくり推進課課長補佐	(説明)
市民協働部まちづくり推進課自治会支援係長	(説明)
市民協働部まちづくり推進課自治会支援係主事補	(説明)

4 観察内容

（1）地域コミュニティ活性化に向けた協働への取組について

ア 飯塚市の地域コミュニティの現状と課題

飯塚市は人口約12万3千人で、市内は12地区に分かれており、各地区に交流センターとまちづくり協議会を設置している。その上で、地域特性に応じた活動が展開されている。一方で、自治会加入率の低下や役員の固定化・高齢化といった課題は顕著であり、大きな課題となっている。1地区に約1万人という区割りになっており、他自治体と比べると比較的きめ細やかな対応が可能と考えるが、担い手不足への対応は喫緊の課題となっている。

イ 若者参加やユニークな取組

立岩地区まちづくり協議会では、20代前半の若者が中心となり、地域清掃やワークショップの企画などを主体的に実施していた。当初は一人のキーパーソンから始まったが、現在は約10人に広がり、地域活動を活性化している。さらに、市全体の取組としては自治会加入促進を目的に自治会の歌を制作し、ラップ調の動画をYouTubeで公開している。動画は他都市からも好評で、参考とすべく近隣自治体からの視察や参考にして動画作成をした事例も複数ある。

ウ 質疑概要

Q 若者が自治会活動に参加する契機は何か。

A 地域に強い関心を持つ若者がキーパーソンとなり、同世代の仲

間を呼び込み活動を広げている。

Q 自治会の歌を制作した狙いは何か。

A 自治会のイメージを若者に親しみやすく伝えること、加入促進のきっかけとすることを目的にした。

Q 自治会出前授業の効果はどうか。

A 子供が家庭で話題にすることで、親世代の理解促進にもつながり、地域活動への関心が広がっている。

(2) 委員所見

自治会加入率低下や役員の高齢化といった全国共通の課題に対し、飯塚市の取組は、ユニークで柔軟な発想を持って挑戦している点が印象的であった。特に、若者が主体的に自治会活動に関わっている事例や、自治会の歌のY o u T u b e動画制作・出前授業といった取組は、自治会活動について世代を超えて伝える工夫として大変参考になった。本市においても、自治会加入促進や担い手確保に向け、若者世代や子供たちに地域を身近に感じてもらう仕組みづくりを進めていく必要があると感じた。



(飯塚市役所入口にて)



(飯塚市議会議場にて)